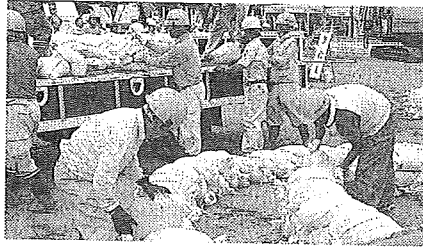


市民ら千200人が 参加し防災訓練

宮坂建設工業

【帯広】宮坂建設工業(本社・帯広、宮坂寿文社長)は3日、帯広中央公園などで第18回防災訓練をした。小学生や高校生を含む市民ら約1200人が参加。実践的訓練やイベントなどを通して防災意識を深めた。

1993年から毎年実施。2003年の十勝沖地震以降は市民参加の公開訓練にしている。ことは帯広、札幌、北見の



3カ所同時に訓練した。早朝に道内各地で震度5強の地震が発生したという想定で開始。緊急時の対応マニュアルに沿って、社内に災害対策本部を置き、パトロール員との連絡体制を確認した。帯広中央公園での堤防決壊を想定した水防訓練では、半円状に土のうを積み月の輪工、重機と大型土のうを使った荒締切

を表演し、技術の高さを示した写真。

参加した北栄小の児童らは消火訓練のバケツリレーなどを体験し、帯広工高生と帯広農高生は口

ープの縛り方や土のう作りを学んだ。

また、帯広建設管理部など関係官庁の職員も訪れ、無線式油圧シヨベル模擬運転などを見学した。

災害に備え築堤 現場で防災訓練

宮坂建設工業

宮坂建設工業(本社・帯広)は3日、工事中の千歳川東野幌築堤中央幹線樋門改築現場で防災訓練を実施。札幌開建千歳川河川事務所、札幌開建



クレーンで土のうを設置、亀裂をシートで養生した

札幌南農業事務所、協力会社ら合わせて約100人が参加、大雨の中、災害時に備えた。訓練は2003年に発生した十勝沖地震を契機に開始。ことし18回目を数える。

訓練は「震度5強」の地震により千歳川へ油が流出、また、築堤に亀裂が発生した想定で開始。作業員がボートに乗り込み、大型クレーンでつり上げたオイルフェンスを受け設置、油流出を防いだ。築堤現場では亀裂を抑えるためシートを養生、決壊にも備えクレーンで土のうを積み食い止める作業も行った。参加者は雨の中、声を張り上げ連携を取り、実践しながらの訓練に取り組んでいた。

非常事態に備え 合同防災訓練

宮坂建設工業らが
北見ヶ丘トンネルで

【帯広】宮坂建設工業（本社・帯広、宮坂寿文社長）は3日、網走開建から同社共同体が受注した第1、第2北見ヶ丘トンネルの現場を対象に、北見警察署と合同で防災訓練をした。応急救護やトンネル作業従事者による消火活動などの訓練を通じて、非常事態に備えた写真。



この日は北見、帯広、札幌の3カ所で防災訓練を実施。北見では、両トンネルを施工する宮坂建設工業・松谷建設共同体

の現場担当者のほか、北見警察署や第二機動隊レスキュー班、網走開建北見道路事務所の職員らが参加した。

早朝に震度5強の地震が発生し、トンネル付近の道路法面が崩壊して車両1台が生き埋めになったという設定。運転者を救出し、AEDによる応急訓練をした。

続いて消火・避難訓練を実施。北見警察署の伊藤孝則署長は「緊張感のある実践的な訓練だった」と評価していた。